

# 日本版消防チャプレン実現に向けたニーズ調査

## ー消防署（消防隊員）を中心にー

明治国際医療大学 諫山憲司

### 研究報告要旨

2021年12月～2022年7月、全国の消防隊員を対象に死生に関連する緊急的な臨床現場における心的ケアの必要性について現状を把握するための調査（アンケート・ヒアリング）を行った。210名の消防隊員の回答から、人の死生にかかわる消防活動経験で最も心的ストレスが高かった項目が「殺人や自殺」で、最も心的ケアが必要と感じた項目が「同僚の死傷体験」であった。心的ケアの必要性について、必要55.2%、どちらかといえば必要33.8%であった。自分の責任と感じ同僚に関する体験が、心的ケアの必要性を強くしており、心的ケアについて約90%が「必要」との回答から、消防隊員の死生に関連する緊急的な臨床現場における心的ケアに関する潜在的なニーズがあると考えられた。さらに、現場の心的ストレス以上に、職場内の人間関係によるストレスが高いことが示唆された。

# 研究報告書

## 1. 研究の目的・方法

欧米では、病院などの医療・介護施設やホスピスにおいて、患者・家族・スタッフの精神的・宗教的、スピリチュアルなケアをするためのチャプレンが採用されている。そのなかでも消防チャプレンは、災害援助や救急救命に関与し死生に関連する緊急的な臨床現場において、遺族や消防隊員のグリーフケアだけでなく現場の空間を癒す役割も担っている<sup>1)</sup>。しかし、本邦に消防チャプレンは存在しておらず、臨床現場における心的ケアは手つかずの状態である。蘇生など死生にかかわる臨床現場において、消防は救命を主眼としており人生の最終段階や死の臨床に不慣れである。公務優先とはいえ死者への弔いの念や遺族に寄り添う態度が欠けており、日常業務における消防隊員への心的ケアも未対応のままである。

本研究の目的は、死生に関連する緊急的な臨床現場における消防隊員の心的ケアの必要性について、現状を把握するための調査を行い消防隊員から心的ケアに関するニーズと、消防業務に関する心的ストレス状況について明らかにすることである。

2021年12月～2022年7月、関西を中心とした全国の消防隊員を対象に、死生に関連する緊急的な臨床現場における心的ケアの必要性について現状を把握するための調査を実施した。調査は、Google フォームによるアンケートと対面/オンラインでのヒアリング、内容は、属性や心身の状況（たばこ、睡眠時間など）に関する質問項目（別添①）を設定した。消防隊員が日頃どのような死生にかかわる臨床現場があるかについて、IES-R（Impact of Event Scale-Revised）改訂出来事インパクト尺度日本語版を用い、スピリチュアルなケアが必要な出来事や職場での心的ケアの状況について調査した。

### 〔質問内容〕※別添②

#### 設問 1.

質問項目は、ときとして人にふりかかり、精神的なショックから強いストレスを生じうる出来事を並べたものです。あなた自身の人の死生にかかわる消防活動経験（体験）で、最も心的ストレスが高かった項目をひとつ選んでください。

#### 設問 2.

質問項目は、あなた自身の人の死生にかかわる消防活動経験（体験）で、最も自身の心的ケアが必要と感じた項目をひとつ選んでください。

### 〔ISE-R 質問〕※別添③

項目はいずれも、強いストレスを伴うような出来事に巻き込まれた方々に、後になって生じることのあるものです。「死生にかかわる消防活動現場」に関して、本日を含む最近の1週間では、それぞれの項目の内容について、どの程度強く悩まされましたか。あてはまる欄に☑をつけてください。

## 2. 内容・実施経過

210名の回答から、男性97.1%、年代別：20代19.5%、30代33.8%、40代41.4%、50代5.2%、所属別：救急隊51.0%、消防隊23.8%、救助隊11.0%、他、たばこ：69.5%吸う、睡眠時間：5-6時間34.8%、6-7時間34.3%、7-8時間14.8%、4-5時間12.4%、他、運動習慣：77.1%ある、普段の朝食：81.0%とる、普段の間食：55.2%する、普段の飲酒：60.5%する、であった。

質問 1. 2. の高率であった項目順に、設問 1. 率を [ ], 設問 2. 率を ( ) で示す。⑩殺人や自殺 [18. 1] (17. 1) ③交通事故 [13. 3] (9. 0) ⑪消防活動や救助活動で助けられなかった現場 [11. 9] (14. 3) ⑭自分の責任で同僚が消防・救急救助活動中に死亡または大怪我をした体験 [10. 5] (15. 2) ②火事・爆発事故 [8. 1] (2. 9) ①自然災害 [7. 1] (6. 7) ⑩孤独死、腐敗死 [6. 2] (2. 9) ⑧その他、ほとんどの人が体験しないような、ひどくショッキングな出来事 [5. 7] (5. 7) ⑤その他、仕事や家庭の中、あるいは余暇活動中におきた深刻な事故 [3. 8] (2. 4) ⑬同僚が消防・救急救助活動中に死亡または大怪我をした体験 [3. 8] (14. 3) ⑦子どもへの虐待 [3. 8] (4. 3) ⑤その他、仕事や家庭の中、あるいは余暇活動中におきた深刻な事故 [3. 8] (2. 4) ⑮新型コロナウイルス感染症に関するストレス [3. 3] (3. 3) ⑰家族や身近な知人が、以上の項目のような出来事に巻き込まれたことを知って、強いショックを受けた体験 [2. 9] (1. 0) ⑫AIDS や肝炎、結核などの感染症傷病者への接触で、自分が感染した、あるいは感染しそうになった体験 [1. 0] (0) ⑧刃物や銃などの凶器を用いた暴行 [0. 5] (0) ⑥蹴る、殴るなどのひどい暴行 (DV など) [0] (1. 0) であった。

心的ケアの必要性については、必要 55. 2%、どちらかといえば必要 33. 8%、どちらかといえば必要でない 5. 2%、必要でない 2. 4%、わからない 3. 3%であった。IES-R で 3. [かなり]、4. [非常に]が多かったのが、「どんなきっかけでも、そのことを思い出すと、そのときの気持ちがぶり返してくる」3. n=17、「考えるつもりはないのに、そのことをかんがえてしまうことがある。」3. n=13、「警戒して用心深くなっている気がする。」3. n=11、4. n=2、「そのことについては話さないようにしている。」3. n=8、4. n=4 であった。

### 3. 成果

死生に関連する緊急的な臨床現場における心的ケアの必要性について、「必要」と「どちらかといえば必要」を合わせると対象者全体 (n=210) の約 90%が、なんらかの心的ケアを必要としていることが判明した。项目的に、⑩殺人や自殺 [18. 1] (17. 1) ③交通事故 [13. 3] (9. 0) ⑪消防活動や救助活動で助けられなかった現場 [11. 9] (14. 3) ⑭自分の責任で同僚が消防・救急救助活動中に死亡または大怪我をした体験 [10. 5] (15. 2) と、これらは、共に心的ストレスが高く、心的ケアを必要とする事案だと考えられる。特に注目点は、項目⑬同僚が消防・救急救助活動中に死亡または大怪我をした体験 [3. 8] (14. 3) と、心的ストレスは高値ではないが、心的ケアの必要性は 14. 3%と項目⑩の殺人や自殺に次ぎ、項目⑬と同様に高値である。このことから、心的ストレスが高い事案が必ずしも心的ケアの必要性につながっているのではなく、同僚の死傷体験や助けられなかった思いが、心的ケアの必要性を強くしていると考える。年齢では 30 代と 40 代を合わせると 75. 2%で、その多くが隊長あるいは副隊長として隊の安全管理に気を配り、同僚や部下の心身の安全とケアについて責務を担っている可能性が高い。救急隊の所属が 51%であることから、全体的に救急事案からの回答が多い可能性があるものの、質問項目にかかわるような現場では救急隊のみならず、PA 連携出動 (ポンプ隊と救急車の同時出動) や多数隊出動での現場活動で、救急にのみ偏ったものではないと考えられる。IES-R の結果から、項目に対して 0. [全くなし] の回答も 47~77%と消防隊員の相当数各々が、上手く非番日などでストレス軽減を行っていると考えられる。しかし、2. [中くらい] から 4. [非常に] までを含めると、何らかのストレスを感じ、現場を思い出してしまうが、あえてその事案を話さないようにするなど、各自がストレスに悩まされないよう努めていると考えられる。

ヒアリング調査から消防活動における心的ストレス以上に、職場内の人間関係によるストレスが非常に高いことが示唆された。一方、本研究を通じ心的ケアの必要性や消防隊活動におけるストレスについて吐露できる時代になりつつあると実感した。消防隊員は「強く弱みを見せない」という意識が組織に根付いており、心的ストレスの告白がはばかられ、心的ストレスを受けていることを認めないことがある。配置転換を恐れ、心的ケアを受けない救急隊員が一定数いることも報告されている<sup>2)</sup>。市民からは、現場対応へのニーズが益々高まっていることから、消防隊員は常に、活動中や帰署後（非番日）、深い心の傷を負い、PTSDなどに罹患する可能性も増大している。その被害影響の増大を鑑み、カウンセリングや心理療法にかかわる支援も徐々に始まっている<sup>3)</sup>。1995年の阪神・淡路大震災以降、災害救援者が活動中に被る惨事ストレスへの関心が高まり、総務省消防庁緊急時メンタルサポートチームなど、様々なメンタルヘルスケア・サポートシステムが浸透・広がりつつある<sup>4)</sup>。

本研究は小規模かつ心的ケアになんらかの関心がある者の回答として、おのずと心的ケアの関心度の高さが反映している可能性がある。今後は、既存の心的ケアと、どのような点が同様に違うのかなど課題を明確にし、より消防隊員の心的ストレスの軽減に寄与できる大規模かつ精度の高い調査研究を続ける計画である。

- 1) KT Leach, J Lewis, T Levett-Jones. Staff perceptions on the role and value of chaplains in first responder and military settings: A scoping review. *Journal of High Threat & Austere Medicine* 2020; Vol. 2 No. 1.
- 2) 原 貴大：COVID-19 が病院前救急に与えている影響①. 世界の『救急事情』単訪. *J RESCUE* 2021; 5: 122.
- 3) 山田 泰行, 長須 美和子, 原 知之, 他：東日本大震災の被災地で災害対応と復興支援にあたる自治体職員の心理的ストレス—震災後1年目に実施したメンタルヘルス調査の結果から—. *労働科学* 2017; 93(3) : 80-94.
- 4) 松井 豊：惨事ストレスとは何か 救援者の心を守るために. 河出書房新社. 2019.

別添①

設問4. あなたご自身のことについてお伺いします。該当するものを選んでください。

- F1. 【居住地】お住まいの地域はどちらですか。  
<sub>1</sub> 京都府 <sub>2</sub> 大阪府 <sub>3</sub> 兵庫県 <sub>4</sub> 滋賀県 <sub>5</sub> 奈良県 <sub>6</sub> その他( )
- F2. 【性別】 <sub>1</sub> 男性 <sub>2</sub> 女性
- F3. 【年齢】 あなたの年齢は満でいくつですか。  
<sub>1</sub> 20～29 歳 <sub>2</sub> 30～39 歳 <sub>3</sub> 40～49 歳 <sub>4</sub> 50～59 歳 <sub>5</sub> 60 歳以上
- F4. 【職業】 あなたの主な所属は、この中のどれにあたりますか。ひとつ選んでください。  
<sub>1</sub> 消防隊 <sub>2</sub> 救助隊 <sub>3</sub> 救急隊 <sub>4</sub> 指揮隊 <sub>6</sub> 指令課 <sub>7</sub> 水難救助隊  
<sub>8</sub> 水上隊 <sub>9</sub> 航空隊 <sub>10</sub> そのほか
- F5. 【タバコ】 あなたはタバコを吸いますか。  
<sub>1</sub> すう <sub>2</sub> すわない
- F6. 【睡眠時間】 あなたの普段の睡眠時間に最も近いのはどれですか。ひとつ選んでください。  
<sub>1</sub> 3 時間未満 <sub>2</sub> 3～4 時間未満 <sub>3</sub> 4～5 時間未満 <sub>4</sub> 5～6 時間未満  
<sub>5</sub> 6～7 時間未満 <sub>6</sub> 7～8 時間未満 <sub>7</sub> 8～9 時間未満 <sub>8</sub> 9 時間以上
- F7. 【運動習慣】 あなたは運動習慣がありますか。  
<sub>1</sub> ある <sub>2</sub> ない <sub>3</sub> どちらでもない
- F8. 【朝食】 あなたは普段、朝食をとりますか。  
<sub>1</sub> とる <sub>2</sub> とらない <sub>3</sub> どちらでもない
- F9. 【間食】 あなたは普段、間食をしますか。  
<sub>1</sub> する <sub>2</sub> しない <sub>3</sub> どちらでもない
- F10. 【飲酒】 あなたは普段、飲酒しますか。  
<sub>1</sub> する <sub>2</sub> しない <sub>3</sub> どちらでもない

設問2. 以下の質問にお答えください。

表2. (表1.と同じ) あなた自身の人の死生にかかわる消防活動経験(体験)で、最も自身の心的ケアが必要と感じた項目をひとつ選んでチェック欄に☑してください。

表2.

No.	項目	チェック欄
1	自然災害(洪水、台風、地震、津波、噴火、土砂崩れなど)	
2	火事・爆発事故	
3	交通事故(自動車、船舶、電車、飛行機などによる事故)	
4	有毒物質暴露(危険な化学物質、放射能など)	
5	その他、仕事や家庭の中、あるいは余暇活動中におきた深刻な事故	
6	蹴る、殴るなどのひどい暴行(DVなど)	
7	子どもへの虐待	
8	刃物や銃などの凶器を用いた暴行	
9	監禁(誘拐、人質、捕虜など)	
10	殺人、自殺、災害、事故、ひどい怪我をした現場	
11	消防活動や救急救助活動で助けられなかった現場	
12	AIDSや肝炎、結核などの感染症傷病者への接触で、自分が感染した、あるいは感染しそうになった体験	
13	同僚が消防・救急救助活動中に死亡または大怪我をした体験	
14	自分の責任で、消防・救急救助活動がうまくいかなかったと感じた体験	
15	新型コロナ感染症に関するストレス(搬送病院選定の困難、現場滞在、感染対策など)	
16	孤独死、腐敗死	
17	家族や身近な知人が、以上の項目のような出来事に巻き込まれたことを知って、強いショックを受けた体験	
18	その他、ほとんどの人が体験しないような、ひどくショッキングな出来事	

IES-R お名前 \_\_\_\_\_ (男・女 \_\_\_\_\_ 歳) 記入日 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

下記の項目はいずれも、強いストレスを伴うような出来事にまきこまれた方々に、後になって生じることのあるものです。 \_\_\_\_\_ に関して、本日を含む最近の1週間では、それぞれの項目の内容について、どの程度強く悩まされましたか。あてはまる欄に○をつけてください。(なお答に迷われた場合は、不明とせず、もっとも近いと思うものを選んでください。)

	(最近の1週間の状態についてお答えください。)	0. 全くなし	1. 少し	2. 中くらい	3. かなり	4. 非常に
1	どんなきっかけでも、そのことを思い出すと、そのときの気もちがぶりかえしてくる。					
2	睡眠の途中で目がさめてしまう。					
3	別のことをしていても、そのことが頭から離れない。					
4	イライラして、怒りっぽくなっている。					
5	そのことについて考えたり思い出すときは、なんとか気を落ち着かせるようにしている。					
6	考えるつもりはないのに、そのことを考えてしまうことがある。					
7	そのことは、実際には起きなかったとか、現実のことではなかったような気がする。					
8	そのことを思い出させるものには近よらない。					
9	そのときの場面が、いきなり頭にうかんでくる。					
10	神経が敏感になっていて、ちょっとしたことでどきどきしてしまう。					
11	そのことは考えないようにしている。					
12	そのことについては、まだいろいろな気もちがあるが、それには触れないようにしている。					
13	そのことについての感情は、マヒしたようである。					
14	気がつくとき、まるでそのときにもどってしまったかのように、ふるまったり感じたりすることがある。					
15	寝つきが悪い。					
16	そのことについて、感情が強くこみあげてくることがある。					
17	そのことを何とか忘れようとしている。					
18	ものごとに集中できない。					
19	そのことを思い出すと、身体が反応して、汗ばんだり、息苦しくなったり、むかむかしたり、どきどきすることがある。					
20	そのことについての夢を見る。					
21	警戒して用心深くなっている気がする。					
22	そのことについては話さないようにしている。					